

1 概況

総合指数は平成17年を100として102.6となり、前年比は1.7%の上昇となった。

生鮮食品を除く総合指数は102.4となり、前年比は1.9%の上昇となった。

食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数は100.3となり、前年比は0.6%の上昇となった。

1 - 1 近年の総合指数の動き

和歌山市の年平均総合指数は、平成10年の104.5を最高として、その後下落傾向に転じた。

平成11年、12年は、生鮮野菜、電気・ガス代及び工業製品などの値下がりにより、両年とも0.5%の下落となった。平成13年は、生鮮食品は値上がりしたが、家具・家事用品や教養娯楽関係の値下がりなどにより0.6%の下落となった。平成14年は、生鮮食品、被服及び履物などの値下がりにより1.5%の下落となり、過去最高の下落幅となった。平成15年は、生鮮食品、被服及び履物などの値下がりにより0.6%の下落となった。平成16年は、家庭用耐久財、教養娯楽用耐久財などの値下がりにより0.2%の下落となった。平成17年は、灯油価格が大幅に値上がりしたが、引き続き家庭用耐久財、教養娯楽用耐久財などが値下がりしたことにより0.5%の下落となった。平成18年は、引き続き灯油価格が大幅に値上がりしたほか、7月のたばこ税引き上げに伴う諸雑費の値上がりなどにより0.3%の上昇となり、平成10年以来、8年ぶりに総合指数が前年比で上昇した。平成19年は、果物の大幅な値上がりに加え、魚介類や調理食品の値上がりにより0.6%の上昇となった。平成20年は、灯油などのエネルギーの価格が大幅に値上がりしたほか、穀類、油脂・調味料、菓子類などの食料の値上がりにより1.7%の上昇となり、総合指数は、3年連続での上昇となった。

図1 和歌山市消費者物価指数と前年比の推移

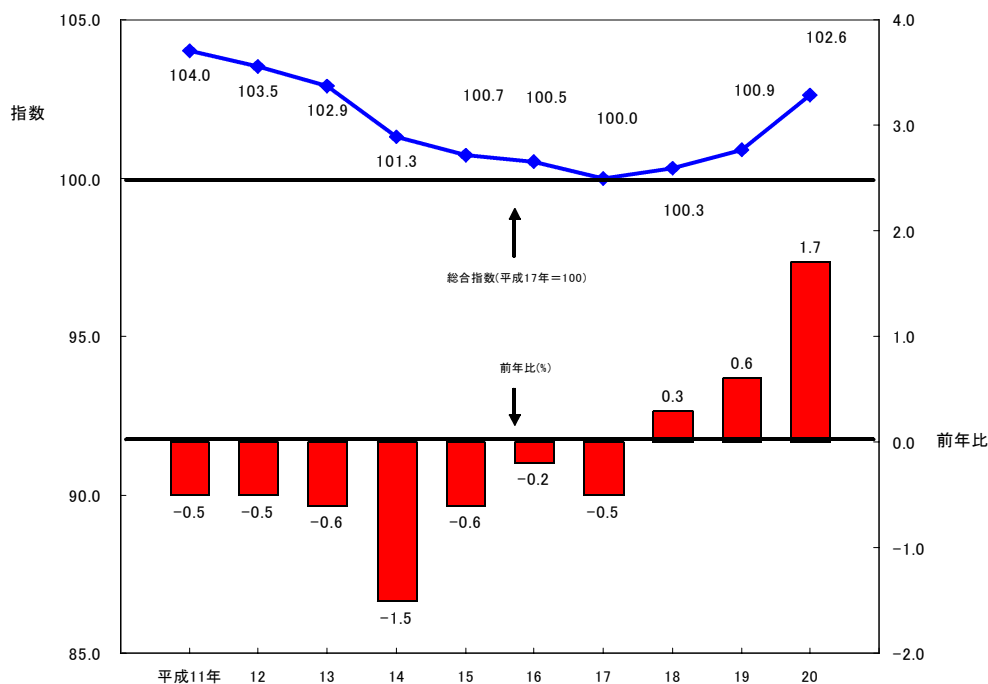


表1 和歌山市消費者物価指数と前年比の推移

年	総合指数 (平成17年 = 100)	前年比 (%)
平成11年平均	104.0	-0.5
12	103.5	-0.5
13	102.9	-0.6
14	101.3	-1.5
15	100.7	-0.6
16	100.5	-0.2
17	100.0	-0.5
18	100.3	0.3
19	100.9	0.6
20	102.6	1.7

表2 平成20年の主な項目の変化率

項目	前年比 (%)
総合	1.7
生鮮食品を除く総合	1.9
持家の帰属家賃を除く総合	2.0
持家の帰属家賃及び生鮮食品を除く総合	2.2
食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合	0.6

註)前年比は各基準年の公表値による。(以下同じ)

図2 総合指数の月別の動き

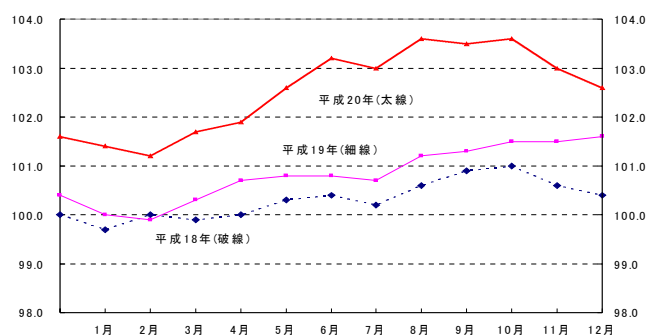


図3 生鮮食品を除く総合指数の月別の動き

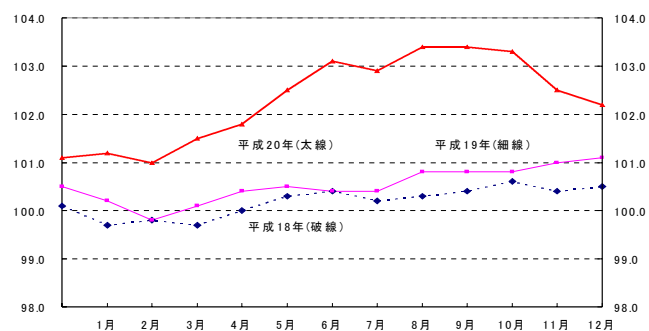
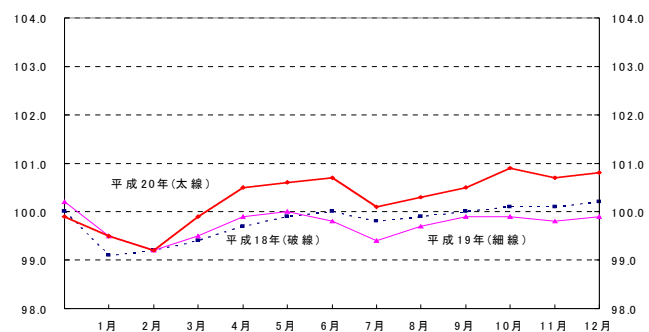


図4 食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数の月別の動き



1 - 2 10大費目指数の動き

平成20年の10大費目指数の動きを前年比で見ると、上昇したものが7費目、下落したものが2費目、同水準のものが1費目であった。

上昇幅がもっとも大きかったのは**光熱・水道**で、電気代やガス代、特に灯油の値上がりにより5.4%上昇した。ついで**食料**が2.9%、**被服及び履物**が2.8%、**交通・通信**が2.0%、**教育**が1.2%、**住居**が0.8%、**諸雑費**が0.4%の上昇となった。

一方、下落した費目をみると、**教養娯楽用耐久財**などの値下がりにより**教養娯楽**が0.7%下落、**保健医療用品・器具**の値下がりにより**保健医療**が0.4%の下落となった。

なお、**教養娯楽用耐久財**は16年連続で下落している。

10大費目の動きを平成20年総合指数の前年比に対する寄与度で見ると、食料が0.82で総合指数の上昇に最も大きく寄与しており、ついで**光熱・水道**、**交通・通信**、**住居**の順となっている。

図5 10大費目の前年比

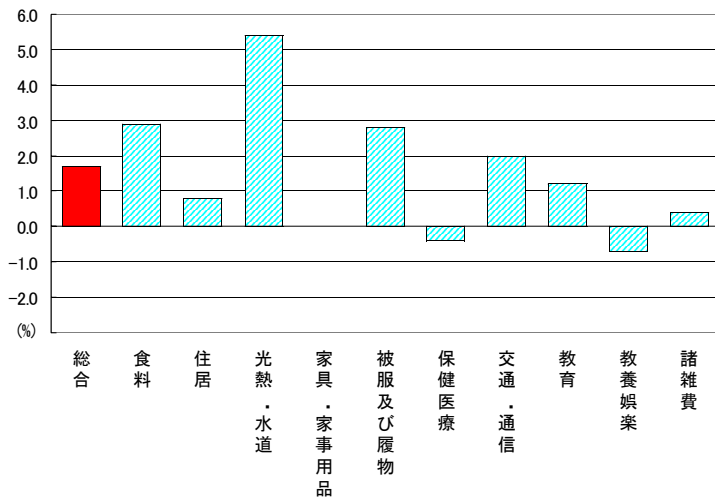


表3 10大費目の前年比及び寄与度

	前年比	寄与度
総合	1.7	1.68
食料	2.9	0.82
住居	0.8	0.17
光熱・水道	5.4	0.39
家具・家事用品	0.0	0.00
被服及び履物	2.8	0.13
保健医療	-0.4	-0.02
交通・通信	2.0	0.26
教育	1.2	0.03
教養娯楽	-0.7	-0.07
諸雑費	0.4	0.02

図6 10大費目の寄与度

